

年間第3 1 主日

福音朗読 ルカ 19・1-10

2022.10.30

カトリック高円寺教会

主任司祭 高木健次神父

よくお祈りのときに気が散るということを大変気にされる方がいらっしゃるような気がします。もちろん、祈りの時間をせっかく取ったのにそのことは忘れちゃって、この後どうしようかなとか今日何を食べようかなとかそればかり考えてたら、たしかにもったいないのはあります。だけど、今日の福音ではイエス様のほうからザアカイにわざわざ会いに来てくださるということが語られました。なので、わたしたちはどんな気の散る中でも、でもイエス様のほうにわたしたちの祈りを任せるっていうこともできるんじゃないのかなっていう気がします。

ザアカイは、今日の福音の中では、自分がイエス様を見ようとして、でも背が低いから見えないので、他の群衆に遮られているので、群衆の影響を受けないように木に登って、そこからイエスを見下ろそうとしたわけですね。だけど、自分に出会うのに、そういう影響を受けないように、っていう必要はないんだと、わたしたちの祈りの中でも、気が散ったり、周りの人とのいろんな思い煩いとか色々な日々のことから完全に離れてじゃないと神に出会えないと思いついでるけど、でも、イエス様のほうから会いに来てくださるのだから、そこはあんまり気にしすぎる必要もないんじゃないかなっていうふうに読んでいいような気がしてるんです。

でも、一方で、そのようにしてイエス様に出会っていただいた者は、今度は逆に周りの人が「あの人は罪深い男だ」なんだかんだって、色々言っても気にならない。他の人々のそういういろんな影響の、ある意味では外にいることができる。自分がイエス様に、神様に出会うために周りのものとの繋がりを断ち切ろう、断ち切ろうとしているときには、そこにイエス様との出会いはない。イエス様がやって来てくれることに信頼して、出会ったときに、実はいろんな周りのことが気にならなくなるというか、イエスと共に生きるっていうことができる。

でも、周りのことが気にならなくなるっていうのは、周りの人と無関係に生きるって言うことじゃありませんよね。ザアカイの生き方が変わったっていうことの中にありますね。徴税人だったので、今まではいろんな人からいくら集められるか、こうやって集めるってことばかりを考えていたけど、イエス様に出会ったあとは与えることのほうに心が変わりましたっていうことですね。

わたしたちも、徴税人ではありませんけども、でも精神的な徴税人になっているということはあるかもしれません。だから聖書の中で、イエス様の時代だっていろんな職業がたくさんあったと思うのに、でも一つの徴税人という職業ばかりが何回も何回も出てくる、クローズアップされるというのは、わたしたちも周りの人たちがどれだけ自分を尊敬するのか、愛情を注ぐのか、周りの人から何をもらえるのかということばかりを気にしている精神的な徴税人になっているからではないかと、想像しています。

だけど、ザアカイのようにイエス様に出会った者は、今度は自分が何を周りの人に、ちゃんと尊敬しているのかな、愛情を注いでいるのか、自分に何ができるのかっていうことに心が変わっていく。その時に、周りの人と共にいても、そのことで右往左往しない。何がもらえるのかっていうことが関心事の中心だったときには、やっぱり周りの人がどうするのかっていうことが気になるから、それに遮られて、自分が巻き込まれて、いろんなことが見えなくなるかもしれません。でも、イエスと共にもう一回振り返って、自分が他の人々に対して尊敬や愛情やその他諸々を与える、というか、渡すことができているのかと考えたときには、イエスと共に自分自身を振り返るわけですから、その中心が自分の中にあると言っていいですね。

そういうふうな生き方、というか見解、イエス様のほうがわたしたちに近づいてきて、そして共に歩もうとされているということ、今日の福音は、ザアカイって一人の人の体験ですけども、でもそれは読んでいるわたしたちにもつながっているんじゃないのか、それはわたしたちの中にも起こることなんじゃないのか、っていう思いで書いていると受け取るのが信仰の読み方ですね。昔にこういう出来事があったんだ、ああそうなんだ、というだけではただの聖書の読書ですね。だけど、わたしたちもザアカイとおんなじようなんだっていうふうに読むっていうのは、ある意味では信者たちにとっては当たり前の読み方かもしれないけども、でもそれを一人ひとりの中で、わたしたちがどのような形で神様に繋がろうとしているのか、そしてイエス様と共に、今イエス様が招いていらっしゃる周りの人とのかかわりかたっていうのはどうなのかなっていうことを考え直すきっかけとして与えられた今日のみことばの気がします。

今日、ご聖体を通してわたしたちの中にむこうから、イエス様がザアカイの所に近づいてきてくれたように、ご聖体もわたしたちの中に入ってきて、「ぜひあなたのところに泊まりたい」っておっしゃっている。祝福とかご聖体拝領を通して、ですね。そのイエスと共に一人ひとりの他の人との繋がりがや人生の歩みがありますように、ザアカイと共にイエス様を迎える思いで、このごミサを共に捧げたいと思います。